

職業実践専門課程等の基本情報について

学校名		設置認可年月日	校長名	所在地																	
福岡スクールオブミュージック & ダンス専門学校		平成11年3月31日	花田 一穂	〒 812-0032 (住所) 福岡県福岡市博多区石城町21-2 (電話) 092-262-2118																	
設置者名		設立認可年月日	代表者名	所在地																	
学校法人滋慶学園		昭和58年12月23日	浮舟 邦彦	〒 134-0084 (住所) 東京都江戸川区東葛西6丁目16番2号 (電話) 03-5878-3311																	
分野	認定課程名	認定学科名	専門士認定年度	高度専門士認定年度	職業実践専門課程認定年度																
文化・教養	文化・教養専門課程	ダンス&アクターズ科	平成22(2010)年度	-	平成26(2014)年度																
学科の目的	産学連携教育を通して、即戦力としての技術や知識を養うと共に、海外と連携した取り組みを通して、グローバルな視点や感性、ビジョン、ビジネスマインドを持つ人材の育成をします。																				
学科の特徴(取得可能な資格、中退率等)	【資格】JESCO認定コミュニケーションスキルアップ検定 【中途退学率】6.8%																				
修業年限	昼夜	全課程の修了に必要な総授業時数又は総単位数	講義	演習	実習	実験	実技														
2年	昼間	※単位時間、単位いずれかに記入 1,800 単位時間 単位	540 単位時間 単位	1,560 単位時間 単位	単位時間 単位	単位時間 単位	単位時間 単位														
生徒総定員	生徒実員(A)	留学生数(生徒実員の内数)(B)	留学生割合(B/A)																		
160人	83人	0人	0%																		
就職等の状況	■卒業者数(C) : 59人 ■就職希望者数(D) : 29人 ■就職者数(E) : 29人 ■地元就職者数(F) : 2人 ■就職率(E/D) : 100% ■就職者に占める地元就職者の割合(F/E) : 7% ■卒業者に占める就職者の割合(E/C) : 49% ■進学者数 : 0人 ■その他 : 0人 (令和5年度卒業者に関する令和4年5月1日時点の情報) ■主な就職先、業界等 (令和5年度卒業生) 球団チア、テーマパーク、ダンススクールインストラクター、音楽スタジオ																				
	■民間の評価機関等から第三者評価: 無 ※有の場合、例えば以下について任意記載 評価団体: 受審年月: 評価結果を掲載したホームページURL																				
	当該学科のホームページURL https://www.fsm.ac.jp/																				
	(A: 単位時間による算定) <table border="1"> <tr><td>総授業時数</td><td>2,100 単位時間</td></tr> <tr><td>うち企業等と連携した実験・実習・実技の授業時数</td><td>0 単位時間</td></tr> <tr><td>うち企業等と連携した演習の授業時数</td><td>1,890 単位時間</td></tr> <tr><td>うち必修授業時数</td><td>1,800 単位時間</td></tr> <tr><td>うち企業等と連携した必修の実験・実習・実技の授業時数</td><td>0 単位時間</td></tr> <tr><td>うち企業等と連携した必修の演習の授業時数</td><td>1,800 単位時間</td></tr> <tr><td>(うち企業等と連携したインターンシップの授業時数)</td><td>120 単位時間</td></tr> </table>							総授業時数	2,100 単位時間	うち企業等と連携した実験・実習・実技の授業時数	0 単位時間	うち企業等と連携した演習の授業時数	1,890 単位時間	うち必修授業時数	1,800 単位時間	うち企業等と連携した必修の実験・実習・実技の授業時数	0 単位時間	うち企業等と連携した必修の演習の授業時数	1,800 単位時間	(うち企業等と連携したインターンシップの授業時数)	120 単位時間
	総授業時数	2,100 単位時間																			
	うち企業等と連携した実験・実習・実技の授業時数	0 単位時間																			
	うち企業等と連携した演習の授業時数	1,890 単位時間																			
	うち必修授業時数	1,800 単位時間																			
	うち企業等と連携した必修の実験・実習・実技の授業時数	0 単位時間																			
	うち企業等と連携した必修の演習の授業時数	1,800 単位時間																			
(うち企業等と連携したインターンシップの授業時数)	120 単位時間																				
(B: 単位数による算定) <table border="1"> <tr><td>総授業時数</td><td>単位</td></tr> <tr><td>うち企業等と連携した実験・実習・実技の授業時数</td><td>単位</td></tr> <tr><td>うち企業等と連携した演習の授業時数</td><td>単位</td></tr> <tr><td>うち必修授業時数</td><td>単位</td></tr> <tr><td>うち企業等と連携した必修の実験・実習・実技の授業時数</td><td>単位</td></tr> <tr><td>うち企業等と連携した必修の演習の授業時数</td><td>単位</td></tr> <tr><td>(うち企業等と連携したインターンシップの授業時数)</td><td>単位</td></tr> </table>							総授業時数	単位	うち企業等と連携した実験・実習・実技の授業時数	単位	うち企業等と連携した演習の授業時数	単位	うち必修授業時数	単位	うち企業等と連携した必修の実験・実習・実技の授業時数	単位	うち企業等と連携した必修の演習の授業時数	単位	(うち企業等と連携したインターンシップの授業時数)	単位	
総授業時数	単位																				
うち企業等と連携した実験・実習・実技の授業時数	単位																				
うち企業等と連携した演習の授業時数	単位																				
うち必修授業時数	単位																				
うち企業等と連携した必修の実験・実習・実技の授業時数	単位																				
うち企業等と連携した必修の演習の授業時数	単位																				
(うち企業等と連携したインターンシップの授業時数)	単位																				
企業等と連携した実習等の実施状況(A、Bいずれかに記入)																					
教員の属性(専任教員について記入)	① 専修学校の専門課程を修了した後、学校等においてその担当する教育等に従事した者であって、当該専門課程の修業年限と当該業務に従事した期間とを通算して六年以上となる者 (専修学校設置基準第41条第1項第1号)						5人														
	② 学士の学位を有する者等 (専修学校設置基準第41条第1項第2号)						4人														
	③ 高等学校教諭等経験者 (専修学校設置基準第41条第1項第3号)						2人														
	④ 修士の学位又は専門職学位 (専修学校設置基準第41条第1項第4号)						0人														
	⑤ その他 (専修学校設置基準第41条第1項第5号)						3人														
	計						14人														
上記①～⑤のうち、実務家教員(分野におけるおおむね5年以上の実務の経験を有し、かつ、高度の実務の能力を有する者を想定)の数						5人															

1.「専攻分野に関する企業、団体等(以下「企業等」という。)との連携体制を確保して、授業科目の開設その他の教育課程の編成を行っていること。」関係

(1)教育課程の編成(授業科目の開設や授業内容・方法の改善・工夫等を含む。)における企業等との連携に関する基本方針

教育課程の編成において、企業・団体等の意見を活かし、必要となる最新の知識、技術を反映するために、企業・団体等が委員として参加する教育課程編成委員会を設置する。また委員会においては、教職員と業界で活躍する非常勤講師が講師会において検討している授業科目の開設や授業方法の改善等の情報や、年2回開催(7月・10月)の合同企業説明会/新人発掘プレゼンテーションでの企業アンケート、また随時教務担当者による企業訪問等を通じての意見も十分に考慮して、教育内容に反映していくものとする。

(2)教育課程編成委員会等の位置付け

※教育課程の編成に関する意思決定の過程を明記

教育課程の編成は、理事会のもとに設置された教育課程編成委員会において討議した内容を十分に考慮した上で、学科会議において編成を行なうものとし、委員会の適切な運営は理事長が担保することとなっている。また、教員組織規則において、「委員会の審議を通じて示された企業等の要請その他の情報、意見を十分に生かし、実践的かつ専門的な職業教育を実施する教育課程の編成に努める」ことが明記され、この定めに従って委員会を運営することとし、PDCAサイクルの過程により教育課程編成の意思決定を行う。Pプラン(教育課程編成委員会)、D実行(学校・学科)、Cチェック(教育課程編成委員会)、A改善(学校・学科)

(3)教育課程編成委員会等の全委員の名簿

令和6年4月1日現在

名前	所属	任期	種別
永吉 啓嗣	株式会社日本芸能文化社	令和5年4月1日～令和7年3月31日(2年)	③
黒岩 翔	ソウルスプラッシュ・エンターテインメント	令和5年4月1日～令和7年3月31日(2年)	③
高橋 剛	株式会社エスエルアイ	令和5年4月1日～令和7年3月31日(2年)	③
奥 功二	株式会社ハーツコーポレーション	令和5年4月1日～令和7年3月31日(2年)	③
伊藤 公了	株式会社KISS・MUSIC	令和5年4月1日～令和7年3月31日(2年)	③
戸田 清章	ソリッド・インターナショナル株式会社	令和5年4月1日～令和7年3月31日(2年)	③
花田 一穂	福岡スクールオブミュージック&ダンス専門学校	令和5年4月1日～令和7年3月31日(2年)	—
宮崎 美鈴	福岡スクールオブミュージック&ダンス専門学校	令和5年4月1日～令和7年3月31日(2年)	—
清水 敬博	福岡スクールオブミュージック&ダンス専門学校	令和5年4月1日～令和7年3月31日(2年)	—
佐久間 康明	福岡スクールオブミュージック&ダンス専門学校	令和5年4月1日～令和7年3月31日(2年)	—
西本 祐介	福岡スクールオブミュージック&ダンス専門学校	令和5年4月1日～令和7年3月31日(2年)	—
白石 美可	福岡スクールオブミュージック&ダンス専門学校	令和5年4月1日～令和7年3月31日(2年)	—
古谷 望	福岡スクールオブミュージック&ダンス専門学校	令和5年4月1日～令和7年3月31日(2年)	—
中村 理佐	福岡スクールオブミュージック&ダンス専門学校	令和5年4月1日～令和7年3月31日(2年)	—

※委員の種別の欄には、企業等委員の場合には、委員の種別のうち以下の①～③のいずれに該当するか記載すること。(当該学校の教職員が学校側の委員として参画する場合、種別の欄は「—」を記載してください。)

- ①業界全体の動向や地域の産業振興に関する知見を有する業界団体、職能団体、地方公共団体等の役職員(1企業や関係施設の役職員は該当しません。)
- ②学会や学術機関等の有識者
- ③実務に関する知識、技術、技能について知見を有する企業や関係施設の役職員

(4)教育課程編成委員会等の年間開催数及び開催時期

(年間の開催数及び開催時期)

年2回(6月、11月)

(開催日時(実績))

第1回 令和6年6月4日 15:00～16:30

第2回 令和7年2月20日 15:00～16:30 予定

(5)教育課程の編成への教育課程編成委員会等の意見の活用状況

※カリキュラムの改善案や今後の検討課題等を具体的に明記。

毎年2回実施している教育課程編成委員会は、学校教育全般、専門的な業界知識の向上や現状の業界に対しての教育力を高めるためのご意見やご指導をいただく場としている。ここでいただいたご意見やご要望に関しては、即対応できるものから、時間をかけて取り組むべきことまで様々なものがあり、本校の教育理念に照らし合わせて活かすべきことは積極的に取り入れている。これはカリキュラム・シラバスはもとより、人間教育の面も含まれている。委員会では出た意見の一部とその活用状況は以下の通りである。キャリア教育の一環としての、コミュニケーションスキルアップ検定の導入や、ホスピタリティオリエンテーション等を実施し、セルフマネジメント力の強化に努めている。就労観を養う目的で、企業課題への取り組みや業界のプロとの共同作業を行う中で、個々のレベルに応じたステップを踏むことで必要な技術や知識を習得し、新たな気づきや仕事のやりがいや体感できる授業を実践している。また、個別最適化のカリキュラムとして、自立したアーティストを目指し、自ら立案したコンセプトを基に制作を行い、講師のサポートの下でチームマネジメントやノウハウを身に付ける授業を展開する。今後は立体音響の分野において指導者を確保し、次世代の音づくりについて学ぶ環境を整備する。

2. 「企業等と連携して、実習、実技、実験又は演習(以下「実習・演習等」という。)の授業を行っていること。」関係

(1) 実習・演習等における企業等との連携に関する基本方針

本校は実践的な能力を有した職業人教育を行うため、業界と学校が連携して行う「産学連携教育」を教育の基本としている。実践的な能力とは、業界の求める専門技術・知識、並びに人間力を持ち合わせた即戦力人材であると考え、その育成を業界とともに実習・演習を実施していくことを基本方針とする。指導は本校の人材育成に賛同頂ける企業等から講師を招へいし実施しており、またカリキュラムの編成は教育課程編成委員会をベースに様々な業界からのヒアリングや企業訪問、校内就職イベント等での接触時において実施し、カリキュラム編成に活かしていくこととする。

(2) 実習・演習等における企業等との連携内容

※授業内容や方法、実習・演習等の実施、及び生徒の学修成果の評価における連携内容を明記

連携企業と協定書を交わした上で企業課題に取り組む「企業プロジェクト」は、業界のプロからの指導のもと、プロの仕事と同じ工程を経験し、「コンセプト力」「クリエイティブ力」「プレゼンテーション力」等、実践力の修得を目的とした演習である。そのプロセスは、①オリエンテーション、②コンセプト作り、③プランニングコミュニケーション、④制作、⑤プレゼンテーション、の一連の流れを経る。

その演習の評価については、制作力と制作過程を通して、実践的な力を身につけているかどうかという視点で判断し、総合的な評価を行う。また職業観や勤労観を養うためにインターンシップ(業界研修)を実施し、企業の担当者の指導のもと、現場体験を深め、更なる即戦力としての技術・知識等の習得を行う。

(3) 具体的な連携の例※科目数については代表的な5科目について記載。

科目名	科目概要	連携企業等
コンポジションソングライティングプロジェクト	企業からの楽曲制作依頼をプロの施策現場をシミュレーションしながら、それぞれが役割を分担して楽曲制作を進める	株式会社日本芸能文化社
ショーケースプロジェクト	一人のアーティストとしてステージ上で必要とされる様々なスキルを習得すると共に、定期オーディションを学内で開催し、パフォーマンス力・実践力を養う	有限会社ソウルマティックス
企業プロジェクト	ミュージカル制作を通して、イベントの運営・企画・舞台制作・プロモーション・出演の全てを学び、プロの現場で即戦力となる人材を育成する	有限会社プランニングRYU 株式会社ハーツコーポレーション 株式会社BASE CAMP
企業プロジェクト	AIやテクノロジーの進化で刻一刻と未来が変化していく中、Challenge the Futureをテーマに企業から映像作品制作の依頼を受け、企画立案から制作・出演まで複数の専門分野と連携し次世代クリエイターを育成する	インテル株式会社
作品制作ワークショップ	自ら立案したプロジェクトを題材に作家／アーティストとしてのセルフプロデュース能力を高める為の授業である。プロジェクトの立案／企画／運営→作品制作→発表→検証が一連の流れとなる。単に「楽曲を作る」のではなく、「その楽曲にどう価値を生むのか」までを現役で活躍する講師と一緒に考え、制作に取り組むことで、自身の業界における作家／アーティストとしての自立像を作っていく	株式会社日本芸能文化社

3. 「企業等と連携して、教員に対し、専攻分野における実務に関する研修を組織的に行っていること。」関係

(1) 推薦学科の教員に対する研修・研究(以下「研修等」という。)の基本方針

※研修等を教員に受講させることについて諸規程に定められていることを明記

研修は教職員規程において、一般教員、学科長、教務部長を対象とし、教員の授業内容・教育技法を改善並びにクラス運営の向上、マネジメント能力を含む指導力の向上を研修の目的と定める。

研修内容は組織における人材育成・キャリア開発のサポートを目的とする一般社団法人滋慶教育科学研究所(JESC)との連携を通じての研修を中心に、別途業界関連企業が行う教育関係者向け研修を学校として組織的に計画、実施を行うものとする。

(2) 研修等の実績

① 専攻分野における実務に関する研修等

研修名:	DX推進研修	連携企業等:	滋慶教育科学研究所
期間:	2023年6月19日	対象:	教職員
内容	データ分析に必要なマインドスキルを理解し活用する		

② 指導力の修得・向上のための研修等

研修名:	FDマイクロレベル研修	連携企業等:	滋慶教育科学研究所
期間:	2023年7月5日	対象:	教職員
内容	学修成果の可視化と明確化による教育効果と教育改善に向けて		

研修名:	FDマクロレベル研修	連携企業等:	滋慶教育科学研究所
期間:	2023年7月14日	対象:	教職員
内容	教育の質保証と質向上の戦略、教育システムのイノベーションをチーム協働する		

研修名:	カウンセリング研修	連携企業等:	滋慶教育科学研究所
期間:	2023年8月1日	対象:	教職員
内容	カウンセリングマインドを身につけ学生や保護者対応できるスキル向上を目指す		

(3) 研修等の計画

① 専攻分野における実務に関する研修等

研修名:	音の魔法イマーシブサウンドの新たな時代	連携企業等:	ソリッド・インターナショナル株式会社
期間:	2024年6月5日	対象:	教職員
内容	イマーシブオーディオがもたらす、新しいエンターテインメントの可能性やビジネスモデルその中で求められる人材について学ぶ		
研修名:	音楽配信時代のアーティスト活動	連携企業等:	チューンコアジャパン株式会社
期間:	2024年6月5日	対象:	教職員
内容	楽曲の配信がサブスクリプションサービスが中心となる現在、アーティストの持つ権利や活動の指針などを学ぶ		
研修名:	起業 / スタートアップを目指す!	連携企業等:	株式会社Artistic Entertainment
期間:	2024年6月5日	対象:	教職員
内容	エンターテインメント業界で起業するために必要な基礎知識を学ぶ		

② 指導力の修得・向上のための研修等

研修名:	滋慶学園COMグループにおける学生支援/指導方針	連携企業等:	滋慶教育科学研究所
期間:	2024年6月25日	対象:	教職員
内容	一人ひとりが成長できる学校をつくるための授業作り・クラス作り、個別支援のためのチーム支援や指導方法について学ぶ		
研修名:	CSAを活用した学生支援について	連携企業等:	滋慶トータルサポートセンター
期間:	2024年8月1日	対象:	教職員
内容	アンケート結果からの分析、学生支援モデルを活用した支援について		
研修名:	講師研修会	連携企業等:	滋慶教育科学研究所
期間:	2024年8月22日	対象:	講師・教職員
内容	一人ひとりを大切にする取り組みと事例発表について		

4. 「学校教育法施行規則第189条において準用する同規則第67条に定める評価を行い、その結果を公表していること。また、評価を行うに当たっては、当該専修学校の関係者として企業等の役員又は職員を参画させていること。」関係

(1) 学校関係者評価の基本方針

学校教職員による委員の他、卒業生、保護者代表、近隣関係者、高校関係者、業界関係者により構成される学校関係者評価委員会を組織し、この委員会が、学校教職員が行なった自己点検・自己評価の内容を審議・評価する事を通じて学校運営の改善に活かす事を基本方針とする。

(2) 「専修学校における学校評価ガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの評価項目	学校が設定する評価項目
(1) 教育理念・目標	教育理念・目的・育成人材像
(2) 学校運営	学校運営
(3) 教育活動	教育活動
(4) 学修成果	教育成果
(5) 学生支援	学生支援
(6) 教育環境	教育環境
(7) 学生の受入れ募集	学生の募集と受け入れ
(8) 財務	財務
(9) 法令等の遵守	法令等の遵守
(10) 社会貢献・地域貢献	社会貢献
(11) 国際交流	

※(10)及び(11)については任意記載。

(3) 学校関係者評価結果の活用状況

学校関係者評価委員の意見を参考にしながら、学校運営の更なる向上に努めていきたいと考え、様々な取り組みを実施している。教育活動においては情報公開の内容について意見があり、分野ごとの修業年限や到達目標や学習内容をより明確にし、学科やコースの特色を分かりやすく説明する等ホームページの更新を行った。

(4) 学校関係者評価委員会の全委員の名簿

名前	所属	任期	種別
井戸川 誠	有限会社ソウルマティックス	令和6年4月1日～令和7年3月31日(1年)	卒業生
末永 奈緒美	在校生保護者	令和6年4月1日～令和7年3月31日(1年)	保護者代表
戎崎 淳一	福岡市大浜公民館 館長	令和6年4月1日～令和7年3月31日(1年)	地域代表
清輔 正孝	福岡県立香椎高等学校 校長	令和6年4月1日～令和7年3月31日(1年)	高等学校関係者
永吉 啓嗣	株式会社日本芸能文化社	令和6年4月1日～令和7年3月31日(1年)	企業役員
黒岩 翔	ソウルスプラッシュ・エンターテインメント	令和6年4月1日～令和7年3月31日(1年)	企業役員
高橋 剛	株式会社エスエルアイ	令和6年4月1日～令和7年3月31日(1年)	企業役員
奥 功二	株式会社ハーツコーポレーション	令和6年4月1日～令和7年3月31日(1年)	企業役員
伊藤 公了	株式会社KISS・MUSIC	令和6年4月1日～令和7年3月31日(1年)	企業役員

※委員の種別の欄には、学校関係者評価委員として選出された理由となる属性を記載すること。

(例) 企業等委員、PTA、卒業生等

(5) 学校関係者評価結果の公表方法・公表時期

(ホームページ・広報誌等の刊行物・その他())

URL: https://www.fsm.ac.jp/school/public_info/

公表時期: 2024年7月31日

5. 「企業等との連携及び協力の推進に資するため、企業等に対し、当該専修学校の教育活動その他の学校運営の状況に関する情報を提供していること。」関係

(1) 企業等の学校関係者に対する情報提供の基本方針

企業等への具体的な情報提供方法としては、学校関係者評価委員会において、評価項目の添付資料として「教育指導要領・重点項目」を閲覧に供すことで、教育活動から学校運営の情報が提供できるものとする。また、業界関係者である非常勤講師と教職員との間で開催する講師会において、教育活動から学生情報や学校運営に関する情報を提供していくものとする。

(2) 「専門学校における情報提供等への取組に関するガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの項目	学校が設定する項目
(1) 学校の概要、目標及び計画	建学の理念・4つの信頼、校長名・所在地・連絡先、沿革、理事(役員)名
(2) 各学科等の教育	受入方針、入学者数、収容定員、在学学生数、学年暦、カリキュラム、4
(3) 教職員	教職員数、組織図、教員の専門性
(4) キャリア教育・実践的職業教育	キャリア教育への取り組み状況、就職・デビュー支援、企業プロジェクト
(5) 様々な教育活動・教育環境	校舎設備紹介、学校行事への取組状況
(6) 学生の生活支援	学生支援への取組状況
(7) 学生納付金・修学支援	学費一覧・諸費用について、奨学金案内、機関要件の確認申請書
(8) 学校の財務	財務資料
(9) 学校評価	自己評価報告書、学校関係者評価委員会
(10) 国際連携の状況	留学生の受け入れ、海外実学研修と専門留学
(11) その他	

※(10)及び(11)については任意記載。

(3) 情報提供方法

(ホームページ・広報誌等の刊行物・その他())

URL: https://www.fsm.ac.jp/school/public_info/

公表時期: 2024年7月31日

授業科目等の概要

(文化・教養専門課程 ダンス&アクターズ科)																
分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業時数	単位数	授業方法			場所		教員		企業等との連携	
必修	選択必修	自由選択						講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任		
1	○		ミュージックセオリー I Music Theory	音楽におけるコミュニケーションに必要な基礎知識（楽譜の読み方・音の理解）を習得します。	1年 半期	30	2	○			○			○	○	
2	○		イヤートレーニング I Ear Training	音を聴き分けたり、音程感やリズム感を養うものとして、身の回りの音から創作力を習得します。	1年 半期	30	2	○	△		○				○	○
3	○		デジタルファンデーション I, II Digital Fundamentals	ビジネス・映像制作アプリケーションの操作方法を学ぶと同時に最新のテクノロジーについての学習を行います。	1年 通年	60	4	○	△		○				○	○
4		○	グローバルコミュニケーション Global Communications	英会話を基礎から学び、国際社会に対応する為の、コミュニケーション力を養います。	全 学年	120	8	○	△		○				○	○
5		○	韓国語講座 I, II, III, IV Korean	ハングルを基礎から学び、国際社会に対応する為のコミュニケーションスキルを養います。	全 学年	120	8	○			○				○	○
6	○		キャリア教育 I, II, III, IV Career Education	様々なワークショップを通して人間関係形成能力・情報活用能力・将来設計能力・意志決定能力を養います。	全 学年	120	8	○	△		○			○	○	○
7	○		特別講義 Guest Lecture	業界よりトップ・プロフェッショナルを招聘し、最新かつ高度な技術・知識、世界水準の思考法等を学び、課題発見・克服に役立てます。	全 学年	随時		○	△		○				○	○
8	○		企業プロジェクト Work Assignments	産学連携教育の一環として業界企業からの課題に応じて楽曲・作品・イベント制作等に取り組み実践力を養成します。	全 学年	随時			○		○	○			○	○
9	○		デビューアクティビティ Debut Activity	デビュー活動を通じ、作品制作力プレゼンテーション力を習得します。	全 学年	随時			○		○			○	○	○
10	○		インターンシップ Internship	業界企業（特に志望企業）の現場で実際の業務に携わり、内定獲得を目標に実践力を習得します。	全 学年	随時			○		○				○	○
11		○	キャリアクレジット Career Credits	学内外を問わず、就職・デビューを目的とした専門分野活動に対し、報告書提出を以って単位認定を行います。	全 学年	随時			○		○	○		○	○	○
12		○	海外実学研修 Study Abroad Short Term	国際教育の一環として、海外の企業や提携校等での研修、ネイティブとの交流を通じ、グローバル感覚を養成します。	1年	60	4		○		○				○	○

(文化・教養専門課程 ダンス&アクターズ科)																
分類	授業科目名			授業科目概要	配当年次・学期	授業時数	単位数	授業方法			場所		教員		企業等との連携	
	必修	選択必修	自由選択					講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任		
13	○			進級制作 Required Project	進級に際し、年間の学修成果を作品提出・発表等の形式で表し、そのクオリティーの評価を以って単位認定を行います。	1年	60	4	○			○	○	○	○	○
14	○			卒業制作 Graduation Project	卒業に際し、在学時の学修成果を作品提出・発表等の形式で表し、そのクオリティーの評価を以って単位認定を行います。	2年	60	4	○			○	○	○	○	○
15		○		ダンスベーシック I. II. III. IV Dance Basic	様々なジャンルのダンスを通して、ダンスの基本となる体幹・柔軟性・リズム感・体づくりの知識を身につけます。	全学年			○			○			○	○
16		○		マルチパフォーマンス I. II. III. IV Multi Performance	表現する際に必要となる歌や演技の基礎技術を習得します。	全学年			○			○			○	○
17		○		ダンススタイル I. II. III. IV Dance Style	様々なダンススタイルを通して、リズム感やボディコントロールなどダンスの基礎力を向上します。	全学年			○			○			○	○
18		○		ヴォイストレーニング I. II. III. IV Voice Training	ヴォーカリストとして重要な正しい発声方法・ソルフェージュを理解し、体作りから日々の練習法までの基礎を習得します。	全学年			○			○			○	○
19		○		ヴォーカルパフォーマンス I. II. III. IV Vocal Performance	ヴォーカリストとしてパフォーマンス能力を向上させる為のリズムの取り方、ダンススキル、アクションに加え、ステージマナーまでを習得します。	全学年	360	24	○			○			○	○
20		○		ミュージックセオリー II. III. IV Music Theory	音楽におけるコミュニケーションに必要な基礎知識（楽譜の読み方・音の理解）を習得します。	全学年			○			○			○	○
21		○		イヤートレーニング II. III. IV Ear Training	音を聴き分けたり、音程感やリズム感を養うものとして、身の回りの音から創作力を習得します。	全学年			○	△		○			○	○
22		○		楽器ファンダメンタル I. II. III. IV Instrumental Playing Fundamentals	ステージ上やレコーディングなどの実際の演奏現場における演奏の基本技術や知識の習得します。	全学年			○			○			○	○
23		○		DTM Desktop Music	音楽制作においてDTMシステムを活用できる技術を習得します。	全学年			○	△		○			○	○
24		○		ダンステクニク I. II. III. IV Dance Technic	様々なジャンルのダンスを通して、リズム感・グルーブ感・ボディコントロールを習得します。	全学年			○			○			○	○
25		○		ダンスパフォーマンス I. II. III. IV Dance Performance	ダンススキルを学ぶとともにステージングや魅せ方、表情などステージに立つ際に必要となる表現の実践力を習得します。	全学年			○			○			○	○

(文化・教養専門課程 ダンス&アクターズ科)																
分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業時数	単位数	授業方法			場所		教員		企業等との連携	
必修	選択必修	自由選択						講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任		
26	○		ダンスクリエイション I・II・III・IV Dance Creation	様々なシーンに合わせたダンスのトータルプロデュースを通してクリエイティブ力を習得します。	全学年	840	56	○			○	○		○	○	
27	○		K-POPゼミ I・II・III・IV K-POP Seminar	K-POPアーティストとして必要とされるヴォーカルスキル・ダンススキルを業界第一線からの視点で指導、また定期クオリティーチェック等を実施し、スキルアップを目指します。	全学年			○				○			○	○
28	○		テクニク I・II・III・IV Technique	基礎的な楽器演奏方法、各楽器構造の理解・実践的なテクニクを習得します。	全学年			○				○	○	○	○	○
29	○		バンドアンサンブル I・II・III・IV Band Ensemble	バンド形態で楽器だけの演奏、ヴォーカルアンサンブルを通し、様々なジャンルのアンサンブル力やコミュニケーション力を習得します。	全学年			○				○	○		○	○
30	○		スタイルアナライズ I・II・III・IV Style Analysis	音楽業界のスタンダードとされる楽曲をテーマに、構成・アレンジ・奏法・サウンドを分析・吸収し、実践力を習得します。	全学年			○				○			○	○
31	○		キャリアデザインワークショップ Career Design Workshops	作品制作課題・イベント実習を通じてデビュー・就職におけるプレゼンテーション資料制作をできる技術・知識を習得します。	全学年			○	△			○	○		○	○
32	○		ショーケースプロジェクト Showcase Project	アーティストとしてステージ上で必要とされる様々なスキルを習得すると共に、定期オーディションを学内で開催し、パフォーマンス力・実践力を養います。	全学年			○				○	○		○	○
33	○		パフォーマンスプロジェクト Performing Project	企業からの依頼などによってステージや番組に出演することでパフォーマンス力はもちろん、現場で必要なマナーや礼儀を身につけます。	全学年			○				○	○		○	○
34	○		ミュージカルプロジェクト Musical Project	ミュージカル制作・社会貢献活動を通じて人間性を養い、実学を習得します。	全学年			○				○	○	○	○	○
35	○		ゼミ Seminar	作品制作など特定の課題に対し研究・演習からプレゼンテーションまでを行い、実践力を養成します。	全学年			240	16	○	△		○	○	○	○
合計					35 科目	2100 単位 (単位時間)										

卒業要件及び履修方法		授業期間等	
卒業要件：	各年次57単位以上を修得し最終学年において卒業認定された者は卒業資格を有する。該当する者は卒業判定会議により最終決定する。	1学年の学期区分	2期
履修方法：	1時限(1コマ)=90分授業(各学期15コマを基本とする) 基礎分野・専門基礎分野・専門分野から履修する。 各学期の試験終了後、規程の評価基準と出席率を満たしている科目について単位認定する。	1学期の授業期間	15週

(留意事項)

- 一の授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち二以上の方法の併用により行う場合については、主たる方法について○を付し、その他の方法について△を付すこと。
- 企業等との連携については、実施要項の3(3)の要件に該当する授業科目について○を付すこと。